

美保関 おべたもん



古代の壮大な ドラマの地・ミホ

出雲の一番始めの神「八束水臣津野命」は、出雲の国が小さい事を嘆いて、親羅（朝鮮半島の古代国）や高志国（新潟県地方）から国土を引き寄せて島根半島を造りました。美保神社のある島根県松江市美保関町の地名はこれらの出雲神話に由来します。島根半島は神が造った聖地であり、東端の美保関は古くは大いなる聖なる岬を意味する「御大之御前」と呼ばれていました。

あびす信仰と鯛

あびす信仰は、本来漁村で「海幸の神」として信仰されたものです。その起源になった地、コトシロヌシが鯛釣りをされた沖の御前、地の御前（いずれも島で美保



神社の飛地境内）があり、4〜5月にかけて産卵のために藻の生えた浅瀬（美保湾）に集まってきた鯛の群れは、より鮮やかな朱色になります。室町時代以降、鯛とあびす様が一体化したのは、朱色に輝く鯛が「海に浮かぶ太陽」に見立てられ「海幸の神」であるあびす様と結びついたと考えられます。あびす信仰は、中世以降、七福神信仰と合体して現世御利益を求める「市場（いちば）、繁盛の神様」となって、上方からの商業文化の波に乗って全国に広まってゆきました。日本を代表する魚といえは鯛。祝い事にはかせないめでたい魚として万人に愛されています。

あびす様のにわとり嫌い

美保神社の氏子は伝統的に鶏肉や鶏卵を食べないといわれてきました。それにはこんなわけがあります。美保神社の御祭神であるあびす様は、夜ごと中海を渡り、ミソクイ姫命のもとにお通いになつていました。ある日、一番鶏が時間を間違えて、まだ夜も明けないうちにトキの声をあげました。あわてたあびす様は船を漕いで戻られる途中、權を流してしまいました。仕方なく左足を權の代わりに入れてしまいました。あびす様がいつも片足を曲げているのは、この時の傷のせいです。やっこの思いで美保関までたどり着いたあびす様の耳に、今度は正確なトキの音が聞こえてきました。怒ったあびす様は以来、鶏を忌むものとされたといわれています。美保関の人々の暮らしの中には、今もこういう神話が生き残っています。

あびす様は 鳴り物(楽器)好き

古来、「あびす様は鳴り物がお好き」との信仰があり、海上安全はじめ諸願成就のために夥しい数の楽器が神社に奉納され、この内846点は現在、国の重要有形民俗文化財に指定されています。中には、日本最古のオルゴールとか初代荻江露友が所有していた三味線とかの名器、珍品が数多く含まれております。平成4年には明治の初頭以来途絶えていた「歌舞音曲奉納」を百年ぶりに復活させ、一流の演奏家と神が対峙しながら奉納演奏し、聴衆は一切の拍手をしなという独特の音楽祭が行われています。

▶ 日本最古のオルゴール

関詣り

美保関詣り

今日は、夫婦そろって出雲時間の体感としやれこんで…。
心も体もおちらと、おちらと。



美保関地域観光振興協議会

〒690-1501
島根県松江市美保関町美保関 661
TEL:0852-73-9001
FAX:0852-73-9005
HP:http://mihonoseki-kanku.jp/

文豪たちが見た美保関

あけな人も、こけな人も、まらよるがや。



小泉八雲(こいずみやくも)

◎小説家/民俗学者
島屋という宿屋のかわいらしい給仕女に、わたくしは何気ない顔をして、しかし肚のうちではよせばいいのと思いが、こんな冗談口をたいたててみた。「アノネ、タマゴハアリマスカ。」女は観音のようにここに「笑いなながら答えた。

「ヘ、アヒルノ タマゴ ガスコシゴザリマス。」
こりや驚いた！
「日本警見記第10章「美保関にて」(平井呈 訳)より



島崎藤村(しまざきとうそん)

◎詩人/小説家
私達の乗って行った岡田丸が美保関港に着いてみると、その辺に見つける船といふ船は、美保神社の参拝者の群でいっぱい溢れていた。参拝記念の旗などを押し立てた船も眼についた。

名高い五本松のある山は美保神社からいくとも離れていない。
青く深い海水に望んで軒を列ねた水樓の屋根が、その傾斜の位置から眼下に見下ろされる。港に浮ぶ船舶のさまも明るく絵のように美しい。「山陰土産」より



司馬 遼太郎(しばりょうたろう)

◎小説家
遠い方を「沖の御前」といい近い方を「地の御前」という。みさきは古来神であった。日本の古い舟人たちはみさきを見ることで自分の位置を知った。つまりはみさきによって船あしがみちびかれてゆくわけで、神というほかない。

司馬遼太郎「街道をゆく」より



与謝野 晶子(よさのあきこ)

◎歌人/作家
●地蔵崎波路のはての海の気のかげろうとのみ見ゆる隠岐かな
●美保の関なお聞あるや我ら来て船を下れば人の見守る



与謝野 鉄幹(よさのてつかん)

◎歌人
●地蔵崎わが乗る舟も大山も沖の御前も紺青のうへ
●切石を敷かぬ方なし磯の町三味の音して水に灯うつる



美保関街歩き ちよつとその前に、 ここに注目!!

この町は、神話の中に、ひっそりたたずんよるが。



家紋と屋号

青石畳通りを中心とした各軒先にはその家の家紋と屋号を記した看板が掲げられています。美保関は江戸時代数多くの商船が行きかう閑所(番所)として賑わった港町で、青石畳通りは宿屋や



青石畳通りの歌碑・句碑

青石畳通りには美保関を訪れた文人墨客がこの地で残した歌や句が7基の歌碑・句碑に記されています。美保神社を参拝し、宿でくつろぐと、興に

あまのみち



まかせて歌を詠み、句を作っては町の人びとに披露していただくようです。

イベント

- 1月11日：正調関乃五本松節唄い染め奉納式
- 5月上旬：五本松公園 つつじ一目千本
- 6月中旬：あご掬い
- 7月初旬：あご掬い
- 7月中旬：いさり火
- 8月下旬：いさり火

祭事記

- 5月5日：神迎神事
- 12月3日：諸手船神事
- 4月7日：青柴垣神事

毎月7日は七日恵美須を開催



美保関

海岸線のくねくね道を曲がりに曲がり、やつの思いで辿り着いた。ここは時間が止まったままの港町・美保関。

そうか、ここまでの道のりは、タイムトンネルだったに違いない。ふとまわりを見渡すと、いか焼きの匂い、深いシワのおばあさん、小学生がお辞儀をしている。なんて町なんだ。日本人が忘れかけているものが全てここに存在する。

C 仏谷寺

後鳥羽上皇、後醍醐天皇が隠岐へ配流された際、風待ちのため行在所となったという由緒あるお寺です。門を入って右手、大日堂には国の重要文化財に指定された山陰最古の仏像が安置されています。薬師如来像を中心に聖観音立体像三体と菩薩形立像一体が並んでいます。また八百屋お七の恋人、小姓吉三のお墓がこの寺にはあり、八百屋お七が江戸で処刑されてから、吉三はお七の冥福を祈るため巡礼の旅をし、仏谷寺へやってきて、ここで70才の生涯を閉じたのです。

B 青石畳通り

美保関は江戸中期以降、雲州高根(東部)・伯州(鳥取県西部)・隠岐(島)をはじめとする北前船の西廻り航路の各国の物産の集散積地として栄えていました。その物資の積み降ろし作業の効率化のための舗装として、当地の海石を切り出して敷設されたのが青石畳です。古い町並みと石畳がもたらす情景は、その当時の面影そのままに今も通る人々を魅了します。



A 美保神社(あびす様の総本社)

二柱のご祭神をお祀りする本殿は、大社造りを2棟並べて装束の間でつないだ特殊な造りで「美保造り」と呼ばれ、国の重要文化財に指定されています。向かって左手が漁業・商業をはじめとする生業の守護神・事代主神が鎮座されている右殿。向かって右手が農業と子孫繁栄の守護神・三穂津姫命が鎮座される左殿となります。神社の歴史は古く、奈良時代以前にはこの地にあったとされるが、戦国の世の戦乱で全てを焼失。現在の本殿は文化10年(1813)の造営で、拜殿・回廊は昭和3年に伊東忠太の設計管理により建築されました。



L 沖の御前とM 地の御前

美保神社の飛地境内。沖の御前は「出雲神話」に出てくる事代主神が鯛釣りをしていた、伝説の御前として知られています。灯台がある。地の御前は、かつて漁師が航海の目印に地蔵像を立てたため、「地蔵崎」とも呼ばれています。



見つけてください美保の七福神

- 1 少彦名命(オホヒコノミコト) 天神社
- 2 久延命(クノシロノミコト) 札社
- 3 事代主神(コトシロノミコト) 地主社 ※美保神社の主祭神
- 4 大日命(オホヒコノミコト) 客人社
- 5 三穂津姫命(ミホツヒメノミコト) 天王社 ※美保神社の主祭神
- 6 御穂須美命(ミホスミノミコト) 地主社
- 7 多通命(タツミチノミコト) 久具谷社

K 美保関灯台

港にそって弧を描くように走るドライブウェイ、通称「潮風ライン」を走り抜けると見えてくるのが美保関灯台です。明治31年(1898)に建てられ、当時の面影をとどめた石造りで風格のある白亜の灯台は、23海里もの遠方まで光を放ち、平成10年には「世界の歴史的灯台百選」に選定されました。



さすがあびすさんおみせれ。 どうじゃ

さすがあびすさんおみせれ。

J 小泉八雲記念公園

この公園は、小泉八雲が美保関町を訪れた際に滞在した船宿「鳥屋」の跡地にあります。美保関港を一望できる公園内には、八雲と妻セツ、長男一雄の家族写真のレリーフをはじめ込んだ石碑があります。



I 入来舎

古民家のお休み処です。仏谷寺の門前に位置するためお寺のガイドもOK。地域活性化の足がかりになればと主婦有志が立ち上げた組織「つわぶきの会」が運営。毎週水・土日の10時~15時までの営業。地元ならではの特産品も考案中。お弁当、コーヒー、紅茶もあります。



H 美保の醤油

かの北大路魯山人が激賞したといわれる美保の醤油。今も手造りにこだわり、伝統の味が守られています。また太鼓醤油店の特製「醤油アイス」も絶品です。



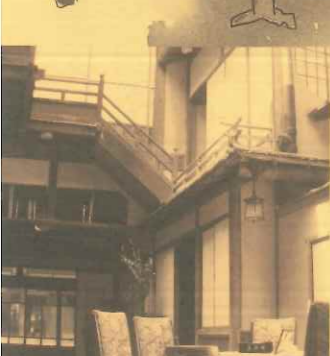
G 美保関資料館

美保関乃歴史を紹介した展示館で、鶴家(ささき)に代々伝わる貴重な近世からの資料を展示しています。なかでも当地に置かれた為替方(現在の銀行業)で使われていた二千両箱は金融のターミナルとしての美保関の繁栄振りを伝えています。



F 美保館本館(有形民俗文化財)

大正ロマンを肌で感じることが出来る「美保館本館」は、数奇屋造りの本格木造建築。島崎藤村や高浜虚子が滞在した部屋がそのまま残されています。



E おかげの井戸(有形民俗文化財)

文久元年(1861)夏の干ばつの際、時の宮司が美保大明神に雨乞いの願をかけると、この場所を掘るようにとのお告げがあり、掘ると水が湧き出て多くの町民を救ったことから「おかげの井戸」と名がつけられました。



D 五本松公園

標高約100~130mの小高い丘の上にあり、民謡「関の五本松節」の由来となった4本の松で有名です。県下では有数のツツジの名所で、一帯には約5000本のツツジが植えられており、4月下旬から5月上旬が見ごろです。



土産物屋・喫茶店

- | | |
|---------------------------|---------|
| ① 青砥商店 | ⑥ 小泉屋商店 |
| ② なべや売店 | ⑦ 福田酒店 |
| ③ 喫茶クリフネ
(出雲三大神話語り部の里) | ⑧ 樹谷鮮魚店 |
| ④ 中浦売店 | ⑨ 北國醤油店 |
| ⑤ 観光センターいしくら | ⑩ 太鼓醤油店 |
| | ⑪ 松浦酒店 |



男女岩

獅子ヶ鼻

やつと美保関についたがや。

